ヤングアダルト

YA本研究会だより

2025.12
Vol.7

― いよいよ年の瀬―

年内最後のYA本研究会。今年は受験生も多く、また、この時期インフルエンザが猛威を振るっていることもあり、この日の参加者は、中学生3人・司書1人の4人とちょっと少なめ。時間に余裕がありそうだったので、ビブリトバトルの前に糸島市立図書館について中学生の意見を聞いてみることに・・・。

司書：みんな、どの館に行くの？
中学生：本館だけ（1人）。小さい時は志摩館、ちょっと大きくなってから二丈館、今は本館（1人）。本館と志摩館（1人）
中学生：それぞれの館でちょっとずつ蔵書が違いますよね？
司書：志摩館は児童書に力を入れてるのと、海が近いから海関係の本を、二丈館は山手だから、農業とか林業とかの本を集めてる。本館は総合的な基幹の図書館だよ。
中学生：今の話すごく納得しました。小さい時は志摩館、ある分野に興味を持ち出して二丈館、今は色々な本を読みたいから本館、というのはあってたんですね。
中学生：本館の入口の静かで薄暗い感じが好きです。
司書：大人の方で、そこが暗いのが気になる、って方もいるよ。
中学生：少し暗い空間が落ち着いて本が読めるからいい。
司書：「食べられる場所がほしい」というのもよく言われるけど、必要？
中学生：別に・・・。

世代が違うと、図書館に求めるものが違うのが改めてわかった機会でした。

さて、今回のビブリオバトルの結果は・・・。

『さよならごはんを明日も君と』 汐見夏衛/著（幻冬舎）
〈紹介者より〉
食についての悩みを持っている人にだけ現れるごはん屋さんで、その人に合わせた料理をその場で作って、色々な悩みを解決してくれます。料理のシーンが書かれてて、読むだけでおいしそうな、心があったまる本です。表紙にも工夫があっておすすめです。

その他の紹介された本は・・・
『謎の香りはパン屋から』 土屋うさぎ/著（宝島社）
『府中三億円事件を計画・実行したのは私です。』 白田/著（ポプラ社）
『ネコの手を借ります。』 山本甲士/著（小学館）

所蔵なし

ほっこり系の本が集まった中で異彩を放つ本が1冊・・・！
さあ、どれから読んでみますか？

YA研の展示コーナー
今回のテーマ「心があったまるほっこりストーリー」【期間：12/7～2/4】

糸島市立図書館/発行